

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全課  
担当課長名：安藤 淳

事業の概要

|   |   |      |        |      |     |
|---|---|------|--------|------|-----|
| 事業名   | 地域高規格道路 宮城県北高速幹線道路<br>主要地方道 築館登米線Ⅱ期（中田工区） | 事業区分 | 地方道    | 事業主体 | 宮城県 |
| 起終点   | 自：宮城県登米市 迫町 佐沼<br>至：宮城県登米市中田町 宝江          | 延長   | 4.7 km |      |     |
| <p><b>事業概要</b></p> <p>宮城県北高速幹線道路は、宮城県北部において、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道（三陸沿岸道路）を直結する地域高規格道路。</p> <p>宮城県北高速幹線道路Ⅱ期（中田工区）は、三陸縦貫自動車道登米ICと登米市中心部を結ぶ道路であり、既供用区間ならびに現道バイパスと一体となって、東北縦貫自動車道及び三陸縦貫自動車道とともに、広域交通ネットワークを形成する道路。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>宮城県北高速幹線道路Ⅱ期（中田工区）は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行する横断軸（仙台周辺・東北横断道（約120km間隔））を補完し、東北縦貫道及び三陸縦貫道間を最短で接続、格子状骨格道路ネットワークの形成に寄与。</li> <li>・沿道の自動車関連産業等の企業立地を支援等を目的とし、東日本大震災に伴う復興支援道路として緊急整備が必要な道路。</li> </ul> <p>全体事業費 60億円 計画交通量 8,200台/日</p> <p><b>事業概要図</b></p> |   |      |        |      |     |

**関係する地方公共団体等の意見**

地元自治体等から構成する「宮城県市議会議長会」「三陸地域地方都市建設協議会」「宮城県市長会」「宮城県商工会議所連合会」「みやぎ県北高速幹線道路建設促進期成同盟会」から、本道路の早期整備を要望されている。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**

—

**事業採択の前提条件**

- ・便益が費用を上回っている。
- ・地元団体から、早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境となっている。

事業評価結果

|        |             |   |  |  |              |
|--------|-------------|---|--|--|--------------|
| 費用対便益  | B/C         | 1.5   | 総費用：51億円<br>（事業費：49億円<br>維持管理費：2.2億円）                                  | 総便益：78億円<br>（走行時間短縮便益：63億円<br>走行経費減少便益：5.6億円<br>交通事故減少便益：10億円）   | 基準年<br>平成23年 |
|        | 感度分析の結果     | 交通量変動   | B/C=1.2（交通量 -10%）  | B/C=1.9（交通量 +10%）  |              |
|        |             | 事業費変動   | B/C=1.4（事業費変動 +10%）  | B/C=1.7（事業費変動 -10%）  |              |
|        |             | 事業期間変動  | B/C=1.5（事業期間変動+20%）  | B/C=1.6（事業期間変動-20%）  |              |
| 事業の影響  | 自動車や歩行者への影響 | 評価項目  | 評価   | 根拠   |              |
|        |             | 渋滞対策  | ◎  | 登米中心部を迂回する路線であり、通過交通の排除等に伴い、登米市中心部の渋滞緩和が見込まれる。<br>【渋滞損失時間の削減】<br>並行区間：約14万人時間/年<br>削減量：約6万人時間/年（約14→8万人時間/年） |              |
|        |             | 事故対策  | ◎  | 通過交通の排除等により、通過交通に起因する交通事故の減少が見込まれる。<br>【安全性の向上（事故の減少）】<br>並行区間 92.8件/億台km（現況）<br>※県内平均死傷事故率 49.4件/億台kmの約1.9倍 |              |
|        | 歩行空間        | —   |  |  |              |
|        | 社会全体への影響    | 住民生活  | ○  | ・第三次救急医療施設（石巻赤十字病院）へのアクセス向上  |              |
|        |             | 地域経済  | ○  | ・東北縦貫自動車道、三陸縦貫自動車道（三陸沿岸道路）を最短距離で結ぶ路線として両路線へのアクセス向上及び定時性確保  |              |
|        |             | 災害  | ○  | ・第一次緊急輸送道路として機能。<br>・東日本大震災発災後、三陸沿岸部と内陸部（東北縦貫道、国道4号）を接続し復旧を支援。   |              |
| 環境     |             | —   |  |  |              |
|        | 地域社会        | ○   | ・栗駒国定公園や南三陸国定公園、伊豆沼・内沼（ラムサール条約登録）などの観光地へのアクセス向上<br>（年間観光客入り込み数 約500万人） |  |              |
| 事業実施環境 | ○           | ・宮城県政運営理念である「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を構成する事業<br>・「みやぎ県北高速幹線道路建設促進期成同盟会」等から強い要望。 |  |  |              |

採択の理由

事業主体である宮城県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.5と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、交通混雑の緩和、交通事故の軽減等、社会全体への効果は高いと判断される。  
以上より、本事業を平成23年度三次補正予算の新規事業箇所として採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額に割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。